名古屋大学博物館報告
Bull. Nagoya Univ. Museum
No. 30, 87–100, 2015

第 24 回名古屋大学博物館企画展記録
西條八束と日本陸水学の流れ

Record of 24th NUM special display
“Yatsuka Saijo and History of Japanese Limnology”

寺井　久慈（TERAI Hisayoshi）・足立　守（ADACHI Mamoru）・
野崎　ますみ（NOZAKI Masumi）

〒 464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町　名古屋大学博物館
The Nagoya University Museum, Furocho, Chikusa-ku, Nagoya, 464-8601 JAPAN

場所：名古屋大学博物館
会期：2012 年 9 月 11 日～ 11 月 10 日
主催：名古屋大学博物館
協賛：日本陸水学会，日本陸水学会東海支部会

本記録は故西條八束・名古屋大学名誉教授の蔵書・資料の寄贈を受けて，その中に含まれる日本陸水学会の創始者や創始期の研究者の著作物を基に日本陸水学の流れを辿るとともに，名古屋大学において陸水学・海洋学分野で国際的に活躍した西條八束の研究と社会貢献活動を展示した記録である．

また, 2012 年 9 月 15 日～ 17 日に日本陸水学会第 77 回大会が名古屋大学で開催されたこともあり，本企画展は日本陸水学会および日本陸水学会東海支部会が協賛して開催されたものである．

本企画展は，会期中に 4,354 人の入場者を得て，好評のうちに幕を閉じた．

また，以下の文章でもふれるが，本企画展の準備と実施にあたっては，下記の各氏の協力を得たので記して感謝する．

市野和夫（愛知大学名誉教授），大町市山岳博物館，岡一郎（南山高等･中学校女子部），奥村（西條）八峯，西條紀子，諏訪兼位（名古屋大学名誉教授），中本信忠（信州大学名誉教授），西山保，花里孝之（信州大学教授），坂野純子（名古屋大学博物館），三田村緒佐武（滋賀県立大学名誉教授），村上哲生（名古屋女子大学教授），八木明彦（愛知工業大学教授），吉岡崇仁（京都大学教授）．

展示の方針と準備作業

2007 年 10 月に他界した故西條八束・名古屋大学名誉教授は，日本陸水学の創始者である田中阿歌麿や日本陸水学会の創設に貢献した吉村信吉，上野益三，菅原健らの貴重な書籍・文献を所蔵していた．その中の菅原健は名古屋大学理学部創設時の教授で，理学部長時に名古屋大学に水に関する総合研究所を設立することを目指し，理学部付属水質科学研究施設を設置した．そこに西條八束を招聘して名古屋大学を日本の陸水学研究の拠点の一つとした．そのような経緯から西條八束の所蔵資料は名古屋大学として保存価値があると判断され，名古屋大学博物館に寄贈され，資料として収納されるこ

ととなった．その資料整理にあたることで寺井久慈（当時中部大学教授）が 2010 年度から名古屋大学博物館研究協力者の委嘱を受けた．

寄贈資料は 2010 年 5 月に段ボール箱で約 80 箱，同 8 月に 15 箱搬入され，後者については保存状態が悪かったため燻蒸処理された．

2011 年 4 月より寄贈資料の本格的な整理を始め，博物館資料室にガラス戸棚付引出保管庫（W 80 cm × H 210 cm）5 本，アングル式書棚（W 90 cm × H 240 cm）5 本を設置して資料を分類しつつ収納した．

2011 年 6 月より日本陸水学会東海支部会のメンバーを中心に，2012 年第 77 回日本陸水学会名古屋大会の日程・会場等の検討を始めた．会期は 9 月 15 日～ 17 日，会場は名古屋大学共通教育棟に予定した．このことを踏まえて名古屋大学博物館における企画展「西條八束と日本陸水学の流れ」の会期を 2012 年 9 月 11 日～ 11 月 10 日とすることにした．日本陸水学会（当時会長：岩熊敏夫函館高専校長，同幹事長：中野伸一京都大学教授）に打診したところ本企画展に対する協賛が認められた（8 月 25 日）．さらに日本陸水学会東海支部会（当時会長：宗宮弘明中部大学教授）にも協賛戴くことになった．

2011 年 12 月から 2012 年 3 月にかけて企画展開催中の特別講演の講師について検討して，講演依頼と日程打診を進めた．その結果，2 月に諏訪兼位名古屋大学名誉教授、川那部浩哉前琵琶湖博物館長，3 月に中本信忠信州大学名誉教授が講師に確定した．あと一人，日本陸水学会名古屋大会開催中に歴代会長からどなたかに講演戴きたいと打診したが，引き受け手がなくやむなく寺井が企画展開催の趣旨と内容について報告することとした．

企画展開催中の特別講演会の日程，講師，講演題目については 4 月初めにほぼ確定した．初回は陸水学会名古屋大会開催時の 2012 年 9 月 17 日に寺井と中本先生、2 回目は川那部先生のご希望で 10 月 7 日，3 回目は名古屋大学ホームカミングデーに合わせて 10 月 20 日に諏訪先生とした．

次に企画展宣伝のためのポスターとチラシの作成に取り掛かった．デザインなど全くの素人でポスターやチラシを作成するのは無謀なことであったが，「西條八束と日本陸水学の流れ」という展示会をイメージできるように 5 月初めから取り組み 7 月はじめまで 2 か月かけて作成した．西條八束が研究フィールドとした木崎湖の写真を取り入れ，西條八束と日本陸水学の創始者グループとしての田中阿歌麿，吉村信吉，菅原健の写真を並べて西條につながる日本陸水学の流れを示した．またそれに田中阿歌麿が 1920 年に標高 2379 m の白馬大池を調査した時の新聞記事となった写真と，西條のレマン湖のスケッチを添えたものを背景として，企画展の開催日程，特別講演会の日程・講師・講演題目などを書き込んでポスターとした（図 1）．そのポスターの縮小版を表面として，裏面に「陸水学」の解説と名古屋大学に「水の総合研究所」として水圏科学研究所が存在したことが博物館でこの企画展を開催することとなった経緯を記した（図 2）．

次いでいよいよ企画展の展示内容の具体的な企画を詰める作業に取り組んだ．

全体の企画構想として，最初に我が国に陸水学を導入した田中阿歌麿（図 3）や日本陸水学会の創立と発展に寄与した吉村信吉，上野益三，菅原健についてその功績を紹介する（図 4）ことを考えた．その中で菅原健が名古屋大学理学部創設期の教授で，名古屋大学に「水の総合研究所」を設立することを目指して理学部水質科学研究施設を設置したこと，そこに西條八束を水圏物質代謝部門の助教授として東京都立大学から招へいした経緯を紹介することとした（図 5）．このようにして，陸水学の流れと名古屋大学の繋がりを明らかにすることを目指した．

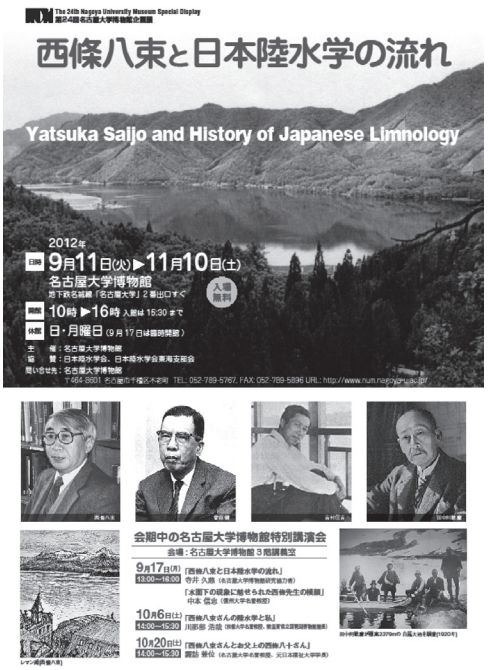

図１．企画展ポスター及びチラシ表面.

図２．企画展チラシ裏面.

図３．日本の陸水学創始者・田中阿歌麿コーナー.

図４．日本陸水学会創始期の吉村信吉・上野益三・菅原健，各コーナー.

図５．西條八束年表.

次の企画構想としては，西條八束の研究を紹介することとした．西條の研究の流れは，学位論文の研究となった仁科三湖の湖沼研究に始まる．しかし，私淑した吉村信吉の突然の殉職により海洋学，内湾や海洋の一次生産の研究にシフトして国際的に活躍する．名古屋大学では，伊勢・三河湾の赤潮発生機構，内湾の富栄養化機構に取り組むとともに，湖沼における窒素循環の研究にも取り組む（図6）．そして大きなプロジェクトとしてのブラジルとの国際共同研究（図7），諏訪湖メソコスム実験（図8）がある．これらをそれぞれ柱にして展示することとした．

もう一つの企画構想として西條八束の社会貢献活動を紹介することとした．西條の社会貢献活動としては第一に宍道湖・中海淡水化事業に対する助言者会議のとりまとめ役として事業を中止させたこと（図9），第二に長良川河口堰問題における各種委員会委員としてデータを公開させたこと（図10），第三に三河湾の埋め立てを厳しく批判したこと（図11），第四に中部国際空港島の建設が海洋

図6． 西條八束の湖沼･海洋･内湾の研究.

図7． 西條八束の国際共同研究（ブラジルの湖沼調査）.

図8． 西條八束の諏訪湖隔離水塊実験プロジェクト研究.

図9． 宍道湖・中海淡水化計画.

図10． 長良川河口堰問題.

図11． 伊勢・三河湾の開発と環境保全.

環境に及ぼす影響を調査する研究者を組織して影響が明らかなことを示し，事業者の調査方法の誤りを厳しく指摘したことである（図 12）．これらをそれぞれ柱として展示することとした．

以上の研究活動や社会活動以外に西條八束の人柄を示すものとして，西條が趣味として，特にフィールド調査の折りに描いたスケッチを集めて展示することとした（図 13）．また水圏科学研究所時代に研究所全体や研究室内で遠足やスポーツ大会などで学生と教官が一緒に遊んだりした写真なども展示することとした（図 14）．

図 12. 中部国際空港島埋め立ての影響．

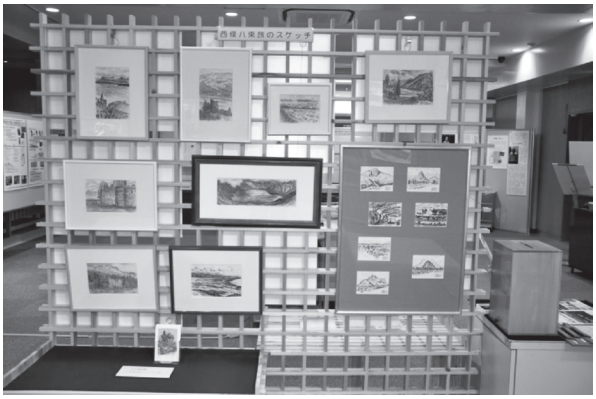

図 13. 西條八束旅のスケッチ．

図 14. 西條八束の研究と研究者交流．

しかし，上に述べた「日本陸水学の流れ」,「西條八束の研究」,「西條八束の社会貢献活動」などでは展示がほとんど文書，文献や写真に限られてしまう．博物館の企画展示としてはもう少し展示に値するものを考える必要があった．まず，田中阿歌麿に関しては，長男の薫氏の記録により，1920 年に白馬大池の調査に行った時の新聞記事があり，写真が大町市山岳博物館に保存されていること，信濃毎日新聞社に当時の新聞がマイクロフィッシュに収められていることを知り，写真の借り出しを依頼し，新聞記事のコピーを手に入れることにした．また，薫氏の記録では阿歌麿が仁科三湖の調査の際に利用した青木湖畔の旅館に掛軸を揮毫したものが残っていることが記されていた．山岳博物館でその旅館は廃業しているが後継ぎの西山保氏が健在であることを伺って，掛軸の借り出しを依頼することにした．2012 年 8 月 2 日に林秀剛信州大学名誉教授に同行して戴いて西山氏宅で掛軸を拝見し，名古屋大学博物館での企画展示の趣旨を説明して掛軸借用をお願いしたところ，快く承諾戴いた次第である．

次に，吉村信吉に関することでは，日本陸水学会の記録によると文部省制作の映画「日本の湖」が吉村信吉指導によるもので，日本陸水学会 50 周年記念（1985）の時に借り出して上映した記録があ

った．そこで調べたところ，国立東京美術館内のフィルムセンターに保存されていることがわかり，名古屋大学博物館からの借り出し手続きにより展示期間中に使用できるDVDコピーを送付戴いて上映することができるようになった（図15）．

あと，陸水学がどのような調査・研究を行うのかが目で見てわかるように，展示できる観測・調査機材（なるべく古いもの）を調達することとして，信州大学諏訪湖臨湖実験所（付属木崎湖観測施設）や滋賀県立大学湖沼実験施設に依頼して借用して展示した（図16）．

最後に，2点のDVDを作成して展示の間にモニターテレビに流すことにした．その一つは，西條八束の人物像がわかるように西條の写真アルバム（名古屋大学退官記念に研究室一同で編集したもの）を基に西條の研究歴や研究室の出来事などをデジタル画像に取り込んで解説したものである．これについては信州大学名誉教授の中本信忠氏に全面的にご協力戴いた（図17）．もう一つは，陸水学の雰囲気を感じて戴くために，「ため池の生物」として動植物プランクトンを中心に昆虫や両生類・鳥類，陸上植物などの写真を画像に取り込んだものである．これについては西條研究室の卒業生で南山中学・高校女子部の岡一郎氏に全面的にご協力戴いた．

図15. 文部省映画「日本の湖」（吉村信吉指導）．

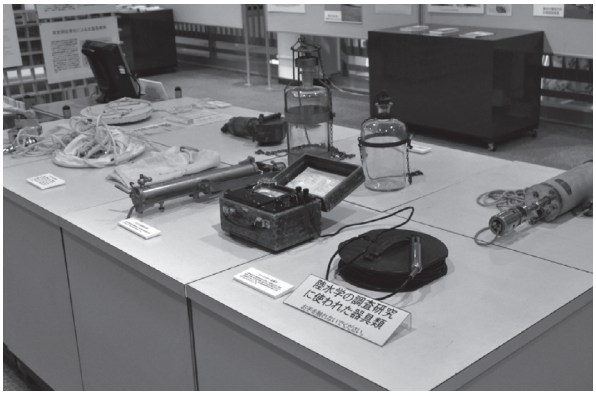

図16. 陸水学の調査研究に使われた器具類．

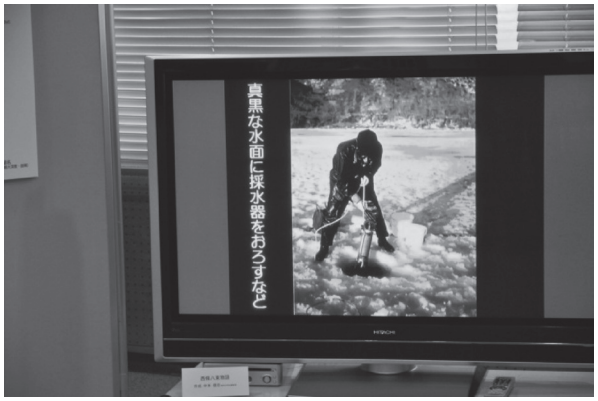

図17. 西條八束アルバムスライドショー．

展示内容とその特徴

①パネル展示（全体の配置を図18に示す）

パネルは各項目A2サイズの説明を基本としてA1サイズの既存のものと併せて50枚，これを補足説明する写真パネルや新聞記事などを拡大したものA3サイズとB3サイズを併せて48枚を展示した．

研究以外のものとして西條がフィールド調査の合間に描いた趣味のスケッチを9点集めて「西條八束旅のスケッチ」と題して展示した（図13）．また西條のアルバムから水質科学研究施設、水圏科学

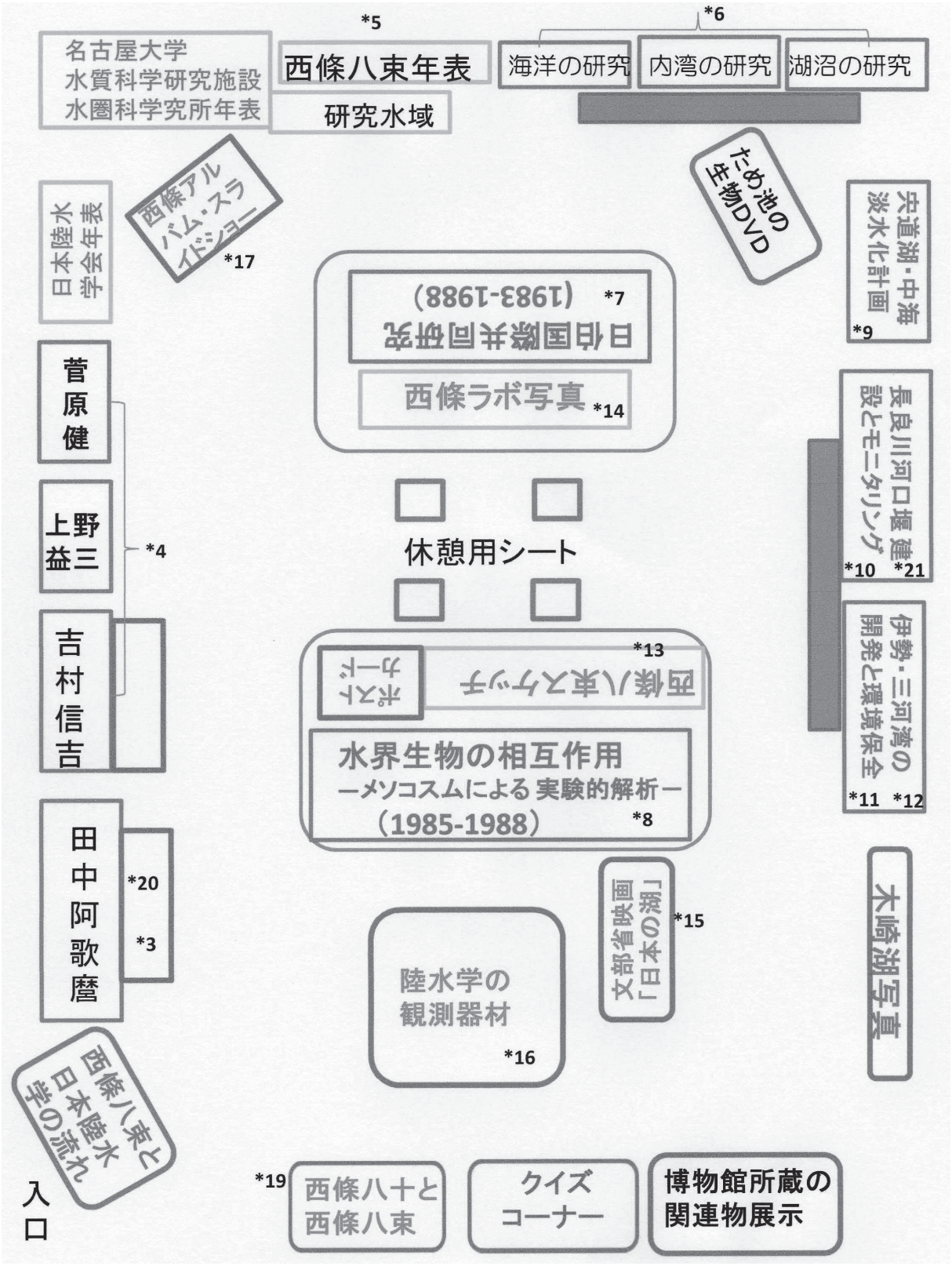

図 18. 企画展のレイアウト（図中の *3 ～ *17, *19, *21 は図 3 ～図 17, 図 19, 図 21 を参照）.

研究所時代の仲間や国内外の研究者との交流がわかる写真をパネルにして A2 サイズ 8 点を展示した（図 14）．また，研究から離れるが，西條が生前に執筆した原稿を没後長女の八峯さんが編集・出版した「父・西條八十の横顔」をもとに「西條八十と西條八束」コーナーを作った（図 19）.

図 19. 西條八十と西條八束.

②物品展示

1）田中阿歌麿揮毫の掛け軸（図 20）

1899 年 8 月 1 日の山中湖の測深により日本陸水学を始めた田中は 1910 年より木崎湖，中綱湖，青木湖の仁科三湖の研究に着手した．その調査の時に中綱湖畔の和泉屋旅館に投宿したことで，宿の主人西山清市氏に掛軸の揮毫を請われた．幼少時より大学までヨーロッパで過ごした田中は日本語の書が苦手なこともありフランス語で揮毫したと長男の薫氏が阿歌麿について記録している．幸いに西山氏の遺族にあたる西山保氏がその掛軸を保存していたので，企画展示に向けて借用をお願いして了承戴いた．

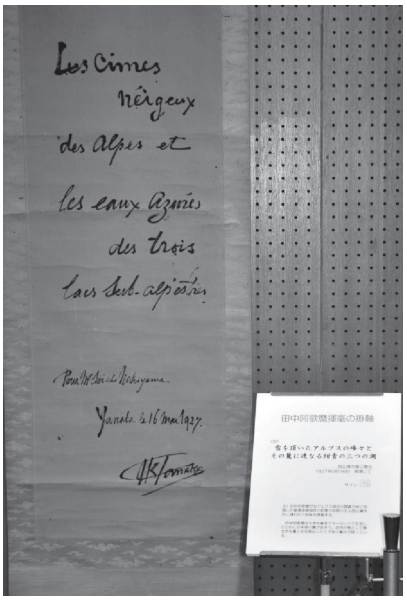

図 20. 田中阿歌麿が揮毫した掛軸.

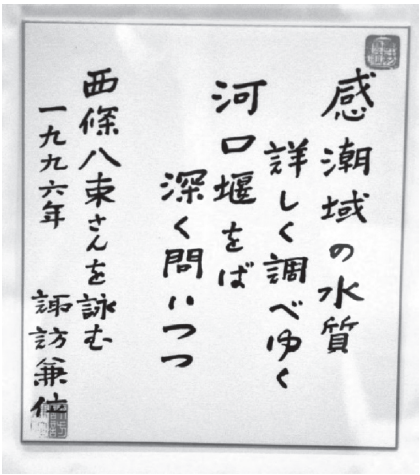

図 21. 諏訪兼位名誉教授の直筆で西條八束を詠んだ歌を展示.

2）書籍・資料ノート展示

田中阿歌麿：日本北アルプス湖沼の研究，野尻湖の研究，諏訪湖の研究（上・下）

吉村信吉：湖沼学，湖沼学の草稿，研究ノート

上野益三：陸水学史，忘れられた博物学，深見池，陸水動物実験法

前田末廣：琵琶湖

菅原　健：たまゆら，続たまゆら

西條八束：小宇宙としての湖，湖は生きている，新編湖沼調査法，湖の世界をさぐる，日本の湖，LAKE KIZAKI，水の環境学（愛知大学講義テキスト），河口堰，ダム湖の陸水学，河川感潮域，取りもどそう豊かな海三河湾，内湾の自然誌，伊勢･三河湾再生のシナリオ，父・西條八十の横顔

３）諏訪兼位先生寄贈の色紙（図 21）

名古屋大学名誉教授諏訪兼位先生が長良川河口堰の水質調査をして河口堰の影響を検討する西條八束を謳った短歌で朝日歌壇に入選された作品（平成 8 年 7 月 14 日）を色紙に自筆して寄贈して戴いたもの.

４）陸水学研究調査機材（図 16）

近年の陸水調査は多項目水質計など自動デジタル計測・記録機器が普及しているが，昔の手動アナログ方式の計測機器は若い研究者にも一見の価値があるのではないかと考えられ，古い計測機器を所有されている研究室から以下の機材を借り出して展示した.

- ガラス瓶式採水器（ゴム栓を手で引っ張って開栓する）
- 北原式採水器（現在でも使用されている）
- エックマン転倒採水器（転倒温度計で採水深度の水温測定と併せて用いた）
- プランクトンネット（現在でも使用されている）
- セッキ透明度版（現在でも使用され，データは 100 年前とも比較可能）
- サーミスター水温計（現在ほとんどデジタル式となりデータロガー付も利用されている．西條時代まではこのアナログ式水温計が常用された）
- ガラス繊維ろ紙打抜器（切り抜いたろ紙は市販されていたが，割高であったため大型方形ろ紙を手で 24 ミリ円形に打抜く機器）
- 湖底堆積物採泥器（現在はエックマン・バージ採泥器が常用されている）

③映画およびスライドショー

１）日本の湖（図 15）

昭和 13 年文部省制作，吉村信吉指導の映画．国立東京美術館フィルムセンターに保存されているフィルムから DVD にコピーしたものを借用し，企画展示期間中に常時放映した．湖沼の基本的調査法から湖沼の成因，湖沼のタイプなど現在でも教育映画として価値あるもの．後日，各地の大学教員からコピーの希望や入手方法など問い合わせが殺到した.

２）西條八束アルバム・スライドショー（図 17）

信州大学名誉教授中本信忠先生のご尽力により，西條八束の名古屋大学退官時に研究室で編纂した西條アルバムから画像を取り込み，解説を交えて編集したもの．西條の研究と人物交流を浮き彫りにした DVD スライドショー.

３）ため池の生物

西條研究室で修士課程に在籍した現南山中学高校女子部の岡一郎教諭のご尽力により，同氏が周年調査・観測している昭和区隼人池の生物を網羅した美しい映像を編集した DVD．動植物プランクトンから植物，昆虫，両生類，爬虫類，鳥類などありとあらゆる生物のスライドショー.

関連行事ほか

1）　企画展期間中の名古屋大学博物館特別講演会

第 1 回　9 月 17 日（月）

「西條八束と日本陸水学の流れ」

寺井　久慈（名古屋大学博物館研究協力者）

「水面下の世界に魅せられた西條先生の横顔」

中本　信忠（信州大学名誉教授）

第 2 回　10 月 6 日（土）

「西條八束さんの陸水学と私」

川那部浩哉（京都大学名誉教授，前滋賀県立琵琶湖博物館館長）

第 3 回　10 月 20 日（土）

「西條八束さんとお父上の西條八十さん」

諏訪　兼位（名古屋大学名誉教授，元日本福祉大学学長）

2）　名古屋大学博物館友の会ギャラリートーク　9 月 24 日（月）

「西條八束と日本陸水学の歴史」

寺井　久慈（名古屋大学博物館研究協力者）

3）　本企画展についてアンケート調査を行ない 58 通の回答を得たので集計した結果を以下に記す.

（2014 年 10 月 15 日受付，2015 年 1 月 10 日受理）

名古屋大学　博物館第 24 回企画展「西條八束と日本陸水学の流れ」

（2012/9/11 ～ 11/10）

アンケート集計（寄せられた感想など）

●どの展示が印象に残りましたか？（いくつでも）

- A：西條八束さんの Video 良し!!
- B：1938 年の日本の湖（吉村先生監修）良し!!
- DVD の「日本の湖」がわかりやすくて良かった.
- とにかく先生の全体がわかりました.
- クイズ.
- コンパクトにまとまっています.
- スライド，吉村の自筆ノート.
- スライド.
- スライド上映.
- ノートやスケッチなど直筆のものなど，とうじの空気が伝わってくるようでよい.
- ノーベル賞.
- パロ.（2 件）
- ビデオ（よくまとまっていて，概要わかりました）.
- マリモ.
- 伊勢三河湾の開発と環境保全.（4 件）
- 伊勢湾における中部国際空港の位置.
- 映画　日本の湖.
- 映像と湖上の生き物の音です.
- 科学者の社会的責任に積極的に取り組まれた事例.
- 海水に対するイメージは→源流の沢までのイメージが強く，池（大きく言って湖まで）は人工的なイメージを強く「陸水」という言い方に，今までの水というもののイメージを大きく広げてみることの出来る良き機会記録が財産となっている事実を確認できました.
- 絵葉書.
- 観測器具，観測法の実際を知って地道な研究の姿勢にふれた思いがしました.
- 器具類展示.
- 吉村の自筆ノート.
- 古い機械ながら長い間の地道な研究が今につながっている.
- 湖のビデオ.
- 湖を知ろう.
- 湖沼の研究.
- 三河湾.（2 件）
- 資料は旧水研にいた長男にやります.
- 宍道湖，中海淡水化計画，事業の開始期から中止までの歴史を示したパネル．個人的には（学生時代山陰線で帰省していた）.
- 宍道湖.（2 件）
- 宍道湖・中海，長良川河口堰，伊勢・三河湾：科学者による社会的貢献のありかたがその実践において明快に伝えられてくると感じました．環境問題，原発事故もんだい，津波被災地の生業（漁業）復興支援等への処し方が学べたと思います.
- 宍道湖での発言（明確に報告を公開すること）.
- 宍道湖の淡水化，長良川，空港建設など多くの事業に関与していたことを初めて知った.
- 実際に使われていた装置など.
- 写真など豊富な資料で，具体的に理解できました.
- 植村氏のものがあったのが意外.
- 新聞記事の切り抜き.
- 図書です.
- 水圏科学研究所（懐かしい先生が拝見できました）.
- 水圏科学研究所の歴史.

- 数多くの業績を見て，改めて西條先生の偉大さを感じた.
- 西條氏のスケッチ.
- 西條先生が宍道湖や長良川河口堰問題などにはたされた科学者としての立場.
- 西條先生の社会的な活動.
- 西條八十と関係.
- 西條八十と植村直己のコーナーがわかりやすい.
- 西條八十と八束の関係.
- 西條八十の長男で驚いた.
- 西條八十コーナー，西條先生のスケッチ.
- 西條八束と中部国際空港.
- 西條八束の人そのものの認識.
- 西條八束旅のスケッチ.
- 西條八束物語のスライドショー.
- 昔の測定器.
- 昔の陸水観測機器.
- 説明もとても丁寧で良くわかりました.
- 全てです.（2 件）
- 全て興味深かった.
- 中海淡水化計画.
- 中部空港.
- 中部空港環境保全に向けて.
- 長良川河口ゼキ.
- 長良川河口堰.（4 件）
- 長良川河口堰建設とモニタリング.（3 件）
- 頂いた資料もていねいに書かれていて嬉しいです.
- 田中阿歌麿揮毫の掛軸.
- 当時の研究器具.
- 日本の陸水学の歴史を見ることが出来た.
- 八束先生のことが少々判った．湖沼学以外の先生のことが知りたい.
- 隼人池の自然／旅のスケッチ.
- 陸水学にたずさわってきた方のパネル（歴史など）.
- 陸水学の先駆者の年表.
- 陸水学の調査研究に使われた器具.
- 陸水学の調査研究に使われた器具類.
- 陸水学の発展に貢献された先生方の業績.
- 旅のスケッチ:私の専門は環境デザインで,（環境の勉強の為陸水学会に所属しております）. 土地の観察のためにスケッチを描きます.（土地の環境条件を説く絵本の出版もあります）. そういう私から見ても西條先生のスケッチは視点，線（筆致）共に素晴らしく，先生の観察文等の引用とスケッチを組み合わせた「本」がどこからか出版されないだろうか？　ということを思いました（先生の研究ノートも…）.
- 良かった.（2 件）

●企画展全体について率直なご感想，ご意見もお聞かせください.

- DVD はもっとお仕事の内容を.
- 説明文でわかりにくいところがある.
- 「総合的陸水学」って何ですか？
- ある意味，広いスペースではない中（失礼），もりだくさんで楽しませていただきました.
- おもしろかった.（2 件）
- すばらしい展示物の数々，数多くの人々に教えてやりたいと思いました．ありがとうございました.
- ずさんな調査によってすすめられる開発が自然環境に及ぼす影響と，陸水学の意義を知り感じられる展示でした.
- とてもなつかしく思いました.
- もっと色々やってほしい.
- やや展示チラシがかたいようです.
- よくまとまっていて，若い人にも見て欲しい.
- わかりやすい展示で良かった.
- パロが反応しなかった.
- パロの反応がうすくて残念でした.
- 一研究者の生き様が知られた.
- 環境問題，陸水学に大きな功績を残された八束先生の実績を見せていただき，環境に携わってきた者として大変感慨深く感じました.

・現物を見られるのがやはり一番，心にぐっときます.
・講演を聞いた後でより興味を持って見れました.
・今も話題になっている長良川河口堰，陸水学の歴史にロマンを感じました.
・今後もこのような展示をお願いします.
・三河湾浄化にもかかわっていたのがおどろきです.
・持ち帰ることが出来るパンフレットや資料がもっとあるとよい.
・写真もカラーのピントが今ひとつです.
・少人数でよく聞くことが出来，よい会でした.
・西條先生の研究が第一で陸水学会の歴史は“ふろく”でいいのでは？
・西條八束以外の年表は不要ではないか？
・説明が不十分な図がある.
・大変なご苦労をして準備されたことがよく分かりました.
・大変有意義
・長良川河口ゼキの資料をもう少し見たかったです.
・通常の生活の中ではふれる事の無い研究の展示という事で知識がなければ全く解からないと思って参りましたが，大変に身近なことでもあり難解で困ったということもなく見せて頂きました．時間が足らずじっくりと見せて頂けなかったことが残念.
・日本の陸水学の歴史を知ることが出来てとても興味深い企画展でした.
・非常によかったです．企画展を企画準備していただいた方々に感謝します.
・本物を見られるところがとてもいいです.
・陸水学の先達の偉業をあらためて知った.
・陸水学をやっている者にとっては，とても有意義な企画である.
・旅のスケッチも大変よい.

●その他どんなことでも結構です．お気付きの点ご希望などありましたらお聞かせ下さい.

・1F の展示品もう少し素人にもわかりやすく.
例：電子顕微鏡の理屈.
・1F 資料展示物の説明が少なすぎ理解しずらい.
・9/17 の講演会で質問時間を沢山とってくださったので良かったです.
・ありがとうございました.
・お一人お一人の人生と出会った感じがしました.
・こうした歴史を振り返ることで，自分が所属している陸水学会，研究グループの一員であることを誇りに思います.
・ここがとてもおもしろかったので，こんどもきます.
・これからも学問の意義とともに社会問題を問いかけるような展示を通して世に発信していってほしいと思います.
・これももちろんいいが，名大の先生に限らずタイムリーな話題に関する展示など幅広くあるとよい.
・また様々な企画を楽しみにしております.
・ノーベル賞の展示を興味深く拝見しました.（東京都渋谷区　M.Y.）長男が農学部 1 年生です.
・絵葉書（スケッチ）ありがとうございました.
・関係者が会場にいて，説明，議論が出来るとよい（毎日は無理でしょうが).
・関連講演会が催される時などは，関連書籍の販売は行われないのでしょうか？特に貴大学出版会の本などは，この場で購入できたら…と思いました（文献リストの配布は親切だと感じました).
・恐竜の足跡の標本の採り方等具体的に知りたいと思っている．どういうところに聞けばよいだろうか.
・高校への PR を．ポスターなど送るとよい.
・次回，高木先生の企画展も楽しみにしております.

・初めて博物館に来ましたが，大変おもしろい展示で良かったです．卒業生にきいたら知らない人が多いのも驚いたし，もったいないと思いました．
・少し遅れて一階でまごついていましたら，若いスタッフが方向を教えて下さって助かりました．
・大変楽しかった．
・日本陸水学について初めて知りました．多くの方々が尽力されて，今があるのだと思いました．
・入り口の記念スタンプの朱肉が淡いので液を補充してください．

●名大博物館へ来られたのは？

初めて	35
これまでにも何回か	20
名古屋大学博物館友の会の会員である	3

●今回の企画展を何でお知りになりましたか？

博物館 HP	6
博物館のチラシ	8
バス停の看板	6
新聞	7
知人	11
その他（学会 10，直来館 1，名大ホームカミングデイ案内 1，学校行事 1，DSP 1，SPP 1）	

●おいくつですか？

10 歳代	6
20 ～ 30 歳代	6
40 ～ 50 歳代	16
60 ～ 70 歳代	27
80 歳以上	3